

北海道
教区時報

第239号

発行所
札幌市中央区北3条西19丁目
(郵便番号 060-0003)
北海道教区教務所
電話 011-611-9623
編集 北海道教区教務所
発行人 中尾了信

「大阪北部を震源とする地震」
「平成30年7月豪雨」により
被災された皆様に
衷心より
お見舞い申し上げます



備後教区並びに宗派では下記口座を開設いたしましたので
ご協力のほどよろしく願いいたします

浄土真宗本願寺派
たすけあい運動募金

口座番号

01000-4-69957

加入者名 たすけあい募金

※通信欄に「大阪府北部地震」または「平成30年7月豪雨」とお書きください。

※必ずお名前をお書きください。

※青色の振込用紙（送金手数料をご負担ください）にてお振込ください。

備後教区災害義援金
郵便振替口座

口座番号

00920-3-83142

加入者名 備後教区教務所

※通信欄に「平成30年7月豪雨災害義援金」とお書きください。

※必ずお名前をお書きください。

※青色の振込用紙（送金手数料をご負担ください）にてお振込ください。

第一〇九回定期教区会(3月23日)

教務所長所信表明

春寒ややゆるむ折、本日ここに第一〇九回定期教区会を招集いたしましたところ、議員の皆様方には、公私ご多端の中を万障お繰り合わせの上ご参集いただきましたこと、御礼申しあげます。

平素より教区諸事業に格別のご高配を賜っておりますことに加え、宗門総合振興計画推進にかかるとる僧侶懇志、並びに門徒懇志にご協力をいただいておりますことを衷心より御礼申しあげますと共に、引き続きのご協力を宜しくお願いいたします。

一昨年の10月より昨年5月末まで勤修されました「第25代 専如 門主伝灯奉告法要」へは、北海道教区より3,000名を超える方々にご参拝いただきましたこと、重ねて御礼申しあげます。

さて、宗派においては2018(平成30)年度より宗門総合振興計画推進期間第2期の4年目となり、ご親教『念仏者の生き方』のお心を体した、次期「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクトがス

タートし、新たに宗派全体の重点プロジェクトとして「貧困の克服に向けて」Dana for World Peace(子どもたちを育むために」と定め、宗門全体で一体感をもって推進されますので、教区としても各組・各寺院と連係をとり進めていきたいと思ひます。

また、教区行事として本年5月12日、13日には、北見西組主管にて「全道仏教壮年大会」が開催され、ますますの仏教壮年会活動の推進と単位会の新規結成の一助となるよう願うものです。

このたびの第一〇九回定期教区会に提出いたします、議案について、財務議案、2017(平成29)年度歳計補正予算案二件、2018(平成30)年度各種歳計予算案5件の合計7件であります。

平成30年度の「御同朋の社会をめざす運動」においては、教区十ヶ年計画5年目を迎え、僧侶研修活動については教学・布教・法式を

学び一定の水準に達することを目的とした「ブロック別僧侶研修会」の継続実施、社会的活動においては、引き続き「医療者と仏教者によるいのちの終わりをみつめ合うシンポジウム」の開催を予定しております。

また、寺院活動支援として「移動教務所」を実施し、北海道教区内寺院の運営上の状況・課題を聴取し、その対応について検討すると共に、寺院子弟交流会を継続実施し、寺院後継予定者の仲間つくりを努めます。

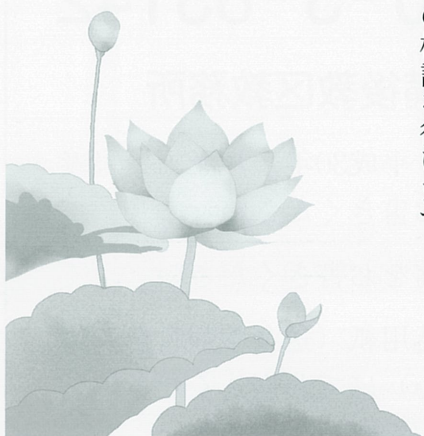
さらに、門信徒教化活動では、子ども・若者ご縁づくり(キッズサンガ)の更なる推進に加え、各教化団体の横の繋がりを重視した「教化団体長研修会」を予定しております。

北海道教区「重点プロジェクト」は、今年度で2期6年の活動を終えますが、引き続き1期2年の「震災支援」を掲げ、「保養事業」及び「被災地現地学習会」を中心とした活動を行い、七回忌を終え、支援活動の熱が冷める中、未だ復興が不十分な被災地の声と、福島第一原子力発電所の事故により苦しむ方々の声を聞き、念仏者として苦しみに寄り添い、わが身を振り返り、お育ていただくことを目標に

掲げ活動の推進をして参ります。

併せて、宗派重点プロジェクト「子どもの貧困」については、活動実績のある他団体等から知る、学ぶことを行い、念仏者として私に何が出来るのかを考えていきます。

最後に、二ヶ年度に渡り実施し、のべ61名の受講をいただいた「若手僧侶のための御同朋学習プログラム」は、今までの研修にはない学びと実践を取り入れた内容で実施し、受講者より有意義な研修会との評価をいただきました。次年度は第一期受講者を今後はスタッフとして活躍いただくことを視野に、同窓会研修を実施すると共に、新たに人材の育成、並びに人権への学びや差別をなくす取り組みについて継続的にさらに学びを深めるべく、より良い次期プログラム内容の検討を行います。



「重点プロジェクト
推進のための学習会」
開催

先般、6月22日(金)に教化セン
ター札幌別院にて「重点プロジェ
クト推進のための学習会」が参加
者68名にて、開催されました。

この学習会は、今年度より2年
間宗派を挙げて取り組む重点プロ
ジェクト「貧困の克服に向けて」
Dana for World Peace〜子ども
たちを育むために」について、経緯
や具体的取り組み内容について経
緯や学びを深める研修会でした。

まず、重点プロジェクト推進室
の宇野哲也部長より「御同朋の社
会をめざす運動」(実践運動)総
合基本計画・重点プロジェクトの
改定並びにその取り組みについて
下記の説明がありました。

①「総合基本計画」の改定について
「総合基本計画」はその性質上
度々変更すべきものではない
が、ご親教『念仏者の生き方』
並びに『伝灯奉告法要御満座の
消息』が發布されたのを受け、
そのお心を体した内容に改定を
行う。

②スローガンはこれまで通り【結
ぶ絆から、広がるご縁へ】を踏

襲する。

③重点プロジェクトの推進期間
(1期3年)について、これま
で各方面より、教区における役
職者の任期との整合性をつけて
ほしいとの意見が寄せられてい
たため、今期を2年間とし、教
区役職者等との任期に合わせ、
次期(2020年度)からは4
年の推進期間とする。

④専如ご門主様より具体的に念仏
者の生き方が提示されたことを
受け、今期の「重点プロジェクト」
は、『念仏者の生き方』を
体した宗門全体の「実践目標」
を定め、宗門全体が一体感を
持つて取り組むこととなった。

尚、現場における早急に取り組
むべき課題は地域差もあり様々
である。そのため、従来通り各
教区・各組において独自に定め
た「実践目標」を設定していた
だけ、宗門全体の課題と併せて
取り組んで
いただくこ
とも可能と
する。

⑤これらの改
定について
は公聴会な
らびに各教
区委員会よ



りの意見集約、企画諮問会議、
宗会全員協議会、実践運動中央
委員会・常任委員会での協議を
経て、第313回定期宗会に
報告の後、総局において策定し
た。

また、『実践運動』や『重点プロ
ジェクト』の概要や策定の経緯
について

・宗制や宗法、宗則によって、推
進していくことが示されてお
り、さらには、専如ご門主様のお
ご親教『念仏者の生き方』並び
に『伝灯奉告法要御満座の消
息』に学び、一人一人が推進し
ていくものである。

・宗門として戦後70年を機縁とし
て「平和に関する論点整理」を
行い取り組みを進めてきたが、
それらの意見なども取り入れ
たうえでこの度の重点プロジェ
クト「貧困の克服に向けて」
Dana for World Peace〜子ど
もたちを育むために」が総局に
もたてられた。

最後に、子どもたちを育むため
に何が必要なのか?として、地域
の実情に合わせ、次の事例を示し
ていただきました。

・子どもたちの安全・安心の確保
(食事、居場所、医療)
・自己肯定感の獲得(体験活動、

学習支援)

・保護者のサポート(保護者会、
サロン)

・小学生・中学生を応援(休日・
放課後支援等)

・寺院と地域との支援ネットワー
クの構築・活動支援

・実務担当者
の配置、人
材育成、ノ
ウハウの蓄
積・共有

・子どもの貧
困問題等
についての
知ること・
学ぶこと・
提言

次に、総合研究所菊川一道研究
員より「貧困」についての講義が
ありました。



・「貧困」についてのイメージと
現実について
支援していこうとする私たち
が、貧困Ⅱ「戦後の子どもたち」
「ストーリーチャイルド」等外面
でわかるものをイメージしすぎ
て、外面ではわからない貧困「ス
マホを持つている」「服は汚れて
いない」等の方々に対して「貧困
のねつ造だ」と言ってしまうこと

・「貧困」についてのイメージと
現実について
支援していこうとする私たち
が、貧困Ⅱ「戦後の子どもたち」
「ストーリーチャイルド」等外面
でわかるものをイメージしすぎ
て、外面ではわからない貧困「ス
マホを持つている」「服は汚れて
いない」等の方々に対して「貧困
のねつ造だ」と言ってしまうこと

がある。しかしその方々は「一日同じものを食べる」「進学はあきらめていく」、小中学校生に至っては「長期休みの時には給食がないため休み明けには痩せてくる子が多い」などの現実もあることを学ばなければならぬ。

・実践目標までの経緯説明

「積極的平和」(戦争がないだけでなく、戦争の原因がない状態)をめざしていく中に、人権の尊重、貧困・差別の克服などの非平和的社会的根本問題に取り組んでいくことが重要である。

・「世界の貧困問題について」

世界的に貧困が多い国は武力紛争を抱えていることが多い。どちらが先だということではないが、貧困の克服の先に平和への道も開かれる側面もあるのではないか。世界の貧困について、私たちがから遠い問題ではなく、私たちが着ている衣類の素材であるコットンはインドがそのシェアを占めているが、そこで働かされている方々は貧困層であることも考えると関係ないことはない。

・国内の「子どもの貧困」について

①絶対的貧困(人間として最低限の生存を維持することが困難な状態)と②相対的貧困(その国の文化水準、生活水準と比較し

て困窮した状態。その国の平均的な水準に比べて所得が著しく低い状態)がある。2012年の日本の貧困線(平均所得の半分)は122万円である。日本は相対的貧困率が先進国の中で第5位となっており、子ども(18歳以下)の7人に1人が貧困となる。

北海道においては、90年代までは相対的貧困率が全国平均だったが、2000年以降全国平均を上回っている。離婚率も都道府県別で上位にあり関係があるのかもしれない。

子どもの貧困については、親の貧困(失業や非正規雇用、病氣、障害、離婚など)により、食料が買えなかったことが全世代の15%にも及ぶことや年収が多いほどテストの点数が高いこと、大学の進学率も収入により変わってくる。

そのように、相対的貧困が及ぼす子どもへの教育的影響が見受けられる。また、貧困により、栄養不良や発達障害などを引き起こすほか、

人格形成に多大な影響を与えるのではないかと。



・さまざまな支援の方法

「貧困」が生じないように社会の仕組みを変える社会的な予防は行政を中心に行っていくかなければならないが、私たちができるケアをどうするか?お金だけでなく、「孤立させない」こと。それは、

お寺として決して初めての取り組みではない、ということ。だからと言って、過去はその社会的背景の中でやってきたことであること、同じ方法では出来ないという前提を知っておく。

2017年度 宗門教会会議の中で水谷修さん(水谷青少年問題研究所所長)は「不登校・引きこもりの子どもが寺院や宗教施設で生活すると、学校への戻りが早くなったり、リストカットができないうという事例があります。また、日本では古来、寺院は役所としての仕事だけでなく、児童養護施設の運営、病んでいく人への対応をしてきたように具体的な社会活動を行ってきた歴史があります。仏教が二千年以上にわたって生き残ってきたのは、衆生、あらゆる人々の迷えるところを本当に救ってきたからであり、それが宗教の力ではないのか」と我々僧侶に期待を込めておっしゃられているように、社会構造上の問題は、現

に苦しみを抱えている人がおり、私ができることを知り、正しく理解し知った上では決して孤立させない、という思いで方策・実践することなのでは。

最後に寺尾量熙(教区会議長)座長のもと協議会を行った。主な意見・提言など

①・保育連盟との協働に期待している。

・貧困の基準ということについて。家族の人数によっても貧困率が上がることもあるが。

・北海道の行政では「子どもの居場所作りマップ」ガイドブックを作っている。

宗派回答

保育連盟のみならず、宗派関係団体すべての取り組みをしたい。寺院活動支援部・門信徒教化部門との連動も然りである。小さい子どもの取り組みは重要と捉えている。

貧困の基準の金額は、あくまで行政の線引きである。実際の生活は苦しい。一人で暮らしている人の基準が122万円と聞いている。例えば、収入が確保できても事例として家族に渡さない限りは、その限りではない。

北海道の取り組みは聞いている。宗派としては政府機関との連

携を模索している。例えば内閣府との「子どもの応援プロジェクト」と連動を考えている。

②・国の対策としての取り組みもあるのだが、貧困層への取り組みに対して、貧困層が敬遠されることがある。継続的な取り組みであるならば「さりげない活動」が大事になる。「ご飯がある」ことを看板に出すことは避けたい。

・発達障害の子どもを受け入れる取り組みを開始した。貧困の原因に「(親たちの)発達障害」ということが取り上げられている。子どもに受け継がれると貧困のスパイラルが生じている。犯罪者の3%、全子どもの7%が発達障害とも言われている。自己肯定感をそがない活動が求められる。

宗派回答

取り組みの課題として、「貧困層が集まらない」ということがある。「集まりなさい」という看板は人権侵害につながる可能性がある。そうではなくこの取り組みは、広く地域に開かれた、という寺院の機能を果たすための活動でもある。「貧困」という切り口にはいろいろな課題があることを知っ

た。「社会的偏見」によって職を失い貧困となる事例も聞いた。

保育士や学習支援などを行っている方々が、現場で子どもと接する中で知り得ることはたくさんある。「あそこは貧困だ」という取り組みにならぬようにしたい。学習支援などをしている人が、経済的に困難な子どもが来ない、という一人一人をよくみると「赤信号」を出している事例がある。ギリギリの状態であるが直接相談するのではなく、そういう場所にいる発信している子どもも多いと言われる。決してムダな取り組みでないということだ。

「発達障害の子ども」はたびたび「変わった子ども」と評される。これは「困っている子ども」の可能性が高いということである。こちら側のアンテナを張ることが重要だ。宗派ではそのような観点はあまりなかったため、持ち帰って学びを深めたい。

③・貧困と平和という二つの意味が含まれる説明だった。しかし、この説明では「弱い」と思った。平和に対しては「争い」という執着心＝煩惱によるからである。もうひとつは、「ダーナ」の用い方

とも「三宝供養」から生じたものであると受けとめて

いる。これが間違える「宗教的布施」は極めて特別なものになりつつある。すなわち、寺院に対しての布施＝ダーナが危機的な状況だと言うことだ。

・平和はパワーバランスなどによつての対策もあり、勘違いされやすいという心配があるということだ。積極的に参加出来る文言を用いてはどうかと思う。

宗派回答

貧困問題が「平和貢献策」というつもりはない。沖縄・自死の課題でも取り上げられることだ。決して宗門としてこれだけだ、というつもりはない。宗制・宗則があり、それを延いては宗門の具体的な運動としての着地点であったということだ。

また、経済的な対価としての「布施」ではないことはもちろん言うまでも無い。この度の英語表記は、国際伝道(世界発信)の観点か



らも有効であると考えている。

・平和はさまざまな捉え方ができる。それを貧困問題としたのは暴力・非行の背景問題と合わせて考えるとよくわかるからであった。

・沖縄の成人式が大混乱したことがあった。これは県民性が開放的だからではなく、貧困率が高い要因もあると聞いた。すなわち、日本復帰後福祉政策などの立ち後れが未だに解決していないと言われている。

④ 宗派あげて取り組みなければならぬことはよくわかるが、私のお寺の喫緊の問題として捉えることが難しい。「どうしてこれに取り組むのか」という説明が出来ない。よくよく聞けばわかるのであるが、一方で「重点プロジェクト」となっている以上、年度送りの達成度が問うのが難しい。

「ワンコイン」を結論だとすると、これは「布施すれば良いのか」という取り組みになつてしまふ恐れがある。

行政の取り組みと寺院の役割は違う、すなわち、行政は「申請」に基づく対応であるからだ。広くみんなを包み込みま

る、という視点を具体的にどうすれば良いのだろうか。

「世界平和」と大きく出た場合は本気度が問われる。宗派内でも横の対応は非常に重要だ。

宗派回答

課題の実感は「学び」しかない。寺院として機能は時代と共に変化するものであるが、むしろ現在は「葬式仏教」で足りない。対外的に日常の寺院活動の活性化に資して欲しい。それは「実践を伴った伝道活動」といえるものがある。

姫路のとある寺院供物のお米を「いなり」にして配付している。関わる人が「どうして私たちがしなければならないのか」という意見が出るという。これは、「誰も好き好んで貧困になつたわけではない」という視点を自らに課さないとならない。「成果」について数値化は難しいと思っている。この度は特に時間がかかると思っている。個人的には次期「重点プロジェクト」に継続する必要があると思っっているが、自己点検をしていただきたい。

・「貧困」が見えづらい、という側面上、数値に表すのは難しい。これは役場・学校・ソーシャルワーカーなどの地域事情

に詳細な人と相談し、情報共有することが大事だ。「世界平和」の指摘があつたが、東京の国連に

通つた中で、広報センター長の根本かおる所長から開口一番怒られた。行事後の懇談会の席で挨拶に出られた全員が男性だったということだ。現場と理想がこれほどに隔絶している課題を克服したい。

最後に中尾了信教務所長より、「関係ないということではなく、我が寺のこととしてどれだけ本気でやるか、という点に尽きる。出来ずじまいはそろそろ許されない。何とか、お寺において仲間と地域の方々を取り組んでいきたい。」とご挨拶いただき、学習会を終了した。

一 教区ではこの2年間を学びの機会と捉え、様々な形での学習や情報収集を行ってまいります。

各組・各ご寺院の皆様もできることから共々に始めてまいります。



公聴会開催について

公聴会開催が決定いたしました。宗派より下記事項について、報告並びに説明、意見聴取がある予定となっております。

各寺報恩講勤修時期ではございますが、別途ご案内申し上げますのでご予定の程よろしくお願いいたします。

【期日】 2018(平成30)年9月7日(金) 14時~17時

【報告】 ①2017年度公聴会の経過報告
②宗門総合振興計画第1期終了および第2期始動について

【協議】 <説明>

- ①実践運動について
- ②宗門財政について(現行の賦課制度について)
- ③僧侶育成体系プロジェクトについて

第51回少年指導者研修会 開催報告

去る、5月18日(金)に空知北組廣徳寺様を会場に「第51回少年指導者研修会」が開催されました。

この度は、「私一人がためのみんが指導者Ⅱ互いにうやまい少年指導のために尽くしますⅡ」をテーマとして、参加者一人一人が講師となり、事前に提出したゲームについて説明や注意点を交え研修会を行いました。

まず、ゲームの指導として、6名の方に指導をいただきました。一つのゲームは簡単ですが、それぞれの注意点など説明いただきました。ゲームに入っていました。基本的にはチームに分かれて行うゲームが多く、また従来あるゲームに少し手を加えるだけでマンネリ化を防げるなど、多くの指導をいただきました。

次に、クラフトについて2名の方々に指導をいただきました。子どもが喜ぶ射的から室内カーリングなど多くのクラフトのアイデアが出されました。十勝組妙法寺こども会の石田智秀さんの指導では「花まつりの際に、甘茶をかける釈迦像を見ながら、油ねんどで



参加してくれた子ども達それぞれが釈迦像を作ります。その前にまず絵本の読み聞かせを行い、その後作成し、それらを並べて甘茶をかけます。色々な釈迦像ができて花祭り自体も盛り上がりです」と説明いただきました。

全員が講師として、ゲームを指導し、全員が参加者としてゲームを楽しみ、各寺院にて少年教化を続けていこうと、確認し散会となりました。

また今回は、事前にゲームについて事例を集め、発行することを空知北組で協議いただき、この度教区内全寺院へ送付させていただきました。

法式研修会開催報告

去る、7月10日(火)に教化センター札幌別院にて、第1回法式研修会が開催されました。

講師に川勝法衣店の営業部長砂原一実さんをお招きし、「本願寺の法衣」と題してご講演いただきました。

砂原さんは、本願寺で明治以前に使われていた「鈍色(どんじき)」「色衣や黒衣のもととなつている(色衣や黒衣のもととなつている)衣体」等を実際にお持ちいただき、ご門主様が大御身の際に着用される「直綴(じきとつ)」等写真も交えてご説明いただきました。



「鈍色(どんじき)」
上下わかれていた

また、七条袈裟や五条袈裟の縫い目にも釈迦台、二天台、四天台とお浄土を表しているとの説明もいただきました。

輪袈裟の説明では、袴から簡略版として式章と肩衣(かたぎぬ)が制定され、肩衣ではなく式章が

よく用いられている歴史的背景とともに、実際に輪袈裟をほどいて小五条袈裟に広げて見せてくださいました。



「肩布」
(かたぎぬ)

最後の質疑応答では、織の職人が減ってきているだけでなく、織機を作る方も減ってきているという法衣店の悩みや手入れについて、年に1回の陰干しは最低限していたら、市販の乾燥剤などを入れて乾燥させることが大切であると答えいただきました。いつもとは違う観点より、ご講義いただき、大変有意義な研修会となりました。



輪袈裟を
ほどいた時の様子

仏教婦人会連盟・寺族婦人会 連盟総会・研修会開催報告

去る、6月18日(月)教化センター札幌別院にて仏教婦人会連盟・寺族婦人会連盟総会・研修会が参加者134名(仏婦84名・寺婦50名)にて開催されました。

研修会では、仏婦総連盟講師の中川清昭さんを招聘し、「新 仏教婦人会綱領の願い」と題してお話いただきました。

時代の流れと共に、現代の社会に馴染みにくくなった綱領を「生き方の多様性を妨げず、誰にでも受け入れられる綱領」という視点を重視し、この度改訂に至った。綱領に込められた願いは、「親鸞聖人のみ教えに導かれ全ての人々の幸せを願う阿弥陀如来のお心をいただき、自他共に心豊かに生きることのできる社会をめざし、共に歩みやすめること」である。これは、宗門全体の願いでもあるため、仏婦会員としても一人ひとりが『私の目標』として取り組んでいただきたい。私一人では無理であれば、お寺や組、または教区と共に活動をいただきたい。

①お聴聞を大切にいたします

↓門徒として唱和するものは、

浄土真宗の生活信条などがあるが、それが実質化しているのか。基本はやはりみ教えを聞き、お念仏のお心を一人ひとりが味わうことが大切。それが、私の生きていく力になる。

②「南無阿弥陀仏」の輪をひろげます

↓一人ひとりの伝道ということ。

現在は親から子へ自然と伝わる環境ではなく、背中を見せて伝える伝道から、前を向き一人ひとりに伝えていくことが重要。普段の生活の中では、なかなか唱えられない今の時代だからこそ、私がお念仏を慶び、称えていくことが大切。その慶びを身近な人に伝えること。

③み仏の願いにかなう生き方をめざします

↓阿弥陀様の願いは、「苦しみ悩むすべてのいのちを必ず救う」というもの。しかし、現実には仏さまの願いとは真逆のあり方である。この現実の中で、み仏の光に照らされ、私自身が少しでもみ仏の願いにかなう生き方を心がけることが大切。それが、ご親教「念仏者の生き方」にも繋がっていく、とお話しいただきました。



柴水会開催報告

去る、7月2日(月)に柴水会聞法の集いが教化センター札幌別院にて開催され、翌3日(火)には柴水会ゴルフ大会が札幌ゴルフ倶楽部由仁コースにて開催されました。

ゴルフ大会には14名のご参加をいただきました。生憎の雨模様の中、なんとか全員ホールアウトすることが出来ました。全組がホールアウト後、クラブハウス2階にて表彰式と親睦会を行い、ジンスカンを食べながら、順位発表と各賞の発表があり、それぞれ寄贈しました。

優勝は、札幌別院壮年会会長の中島昇さんが見事優勝され、会長より優勝トロフィーと副賞、またスコア83でベストグロス賞が贈呈されました。

近年の北海道においては、7月は梅雨のような天候のため、雨の中のプレーとなりました。開催時期については、再度の検討が必要となりますが、来年度も開催いたしますので、ゴルフ愛好家のご門徒さんをお誘いあわせのうえ、ご参加をお待ちしています。



北海道教区ホームページ <http://hokkaidokyomusho.jp>

北海道教区ではホームページを開設しています。

行事予定やお知らせなど掲載しておりますので、是非ご覧下さい。

また、各寺院のホームページのリンクも受け付けておりますので、教務所までご一報下さい。

浄土真宗本願寺派ホームページ <http://www.hongwanji.or.jp>

宗派からのお知らせや、各部署、各教化団体のページなどもリンクされています。

願記のダウンロードや勤式指導所のリンクなどもありますのでぜひご覧下さい。

お西さん(西本願寺)ホームページ <https://www.hongwanji.kyoto>

本山参拝についてや念仏奉仕団、各種法要の案内等掲載されています。

「御同朋の社会をめざす運動」北海道教区委員会名簿

No.	役職	氏名	宗務機関・関係団体	備考
1	委員長	中尾 了信	教務所長	
2	副委員長	亀井 義昭	組長代表	
3	副委員長	両川 武弘	総代会代表	
4	常任委員	加藤 泰和	保育連盟代表	中央委員
5	常任委員	横湯 誓之	組委員会代表・Aブロック代表	札幌組
6	常任委員	佐々木 暎	組委員会代表・Aブロック代表	後志組
7	常任委員	天野 広道	組委員会代表・Bブロック代表	空知南組
8	常任委員	安藤 智昭	組委員会代表・Bブロック代表	上川南組
9	常任委員	迦西 智憲	組委員会代表・Bブロック代表	上川北組
10	常任委員	石田 智秀	組委員会代表・Cブロック代表	十勝組
11	常任委員	菅原 誓之	組委員会代表・Cブロック代表	釧路組
12	常任委員	日笠 和也	重点プロジェクト実行部会代表	
13	常任委員	轡田 光章	布教団代表	
14	常任委員	朝倉 一恵	少年連盟代表	
15	常任委員	永岡 誓世	寺族婦人会連盟代表	
16	常任委員	高倉 健司	スカウトクラブ代表	
17	常任委員	永江 智明	子ども・若者ご縁づくりマネージャー代表	
18	常任委員	名和 康成	若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行部会代表	
19	常任委員	永江 雅邦	連研推進協議会代表	
20	常任委員	伊澤 浄雄	教区勤式指導員	
21	委員	武澤 信行	組委員会代表	函館組
22	委員	山本 融聡	組委員会代表	空知北組
23	委員	吉川 秀洋	組委員会代表	留萌組
24	委員	藤田 淳麿	組委員会代表	宗谷組
25	委員	久保田 真剛	組委員会代表	胆振組
26	委員	忍関 崇教	組委員会代表	日高組
27	委員	鈴木 勝也	組委員会代表	根室組
28	委員	牧野 泰乘	組委員会代表	北見東組
29	委員	古川 宏道	組委員会代表	北見西組
30	委員	上西 初美	仏教婦人会連盟代表	
31	委員	佐藤 美幸	仏教青年会連盟代表	
32	委員	伊藤 友一	仏教壮年会連盟代表	
33	委員	石田 慶嗣	青年僧侶協議会代表	
34	委員	桃井 信之	矯正教化連盟代表	
35	委員	高田 芳行	ビハーラの会代表	

1	顧問	山階 照雄	宗会議員	
2	顧問	丸田 教雄	宗会議員	
3	顧問	牧田 宏	宗会議員	
4	顧問	寺尾 量熙	教区会議長	
5	顧問	小林 義教	組長会長	
6	顧問	内藤 教行	本願寺函館別院輪番	
7	顧問	芝原 文雄	本願寺小樽別院輪番	
8	顧問	陰山 正憲	本願寺帯広別院輪番	

敬称略

任期：2018(平成30)年度～2019(平成31)年度

御同朋の社会をめざす運動 北海道教区委員会 専門部会名簿

敬称略
◎=常任委員

①僧侶研修部会	②門信徒教化部会
部会長 ◎轡田光章(布教団代表・常任委員)	部会長 ◎永江雅邦(連研協議会代表・常任委員)
副部会長◎横湯誓之(札幌組代表・常任委員)	副部会長◎天野広道(空知南組代表・常任委員)
部員 ◎伊澤浄雄(勤式代表・常任委員)	部員 永江智明(子ども・若者ご縁づくり代表・常任委員)
部員 ◎石田智秀(十勝組代表・常任委員)	部員 日笠一美(寺婦代表代理)
部員 ◎名和康成(研修講師団代表・教学)	部員 越後浩義(仏壯連盟代表代理)
部員 古川宏道(北見西組代表)	部員 佐藤美幸(仏青連盟代表)
部員 高田芳行(ビハーラ代表)	部員 佐藤明功(少年連盟代表代理)
部員 桃井信之(矯正教化連盟代表)	部員 (仏婦連盟代表代理)
8名	8名

③社会部会	④寺院活動支援部会
部会長 ◎迦西智憲(上川北組代表・常任委員)	部会長 ◎高倉健司(スカウトクラブ代表・常任委員)
部員 ◎佐々木壘(後志組代表・常任委員)	副部会長 吉川秀洋(留萌組代表)
部員 ◎安藤智昭(上川南組代表・常任委員)	部員 ◎両川武弘(総代会代表・副委員長)
部員 ◎菅原誓之(釧路組代表・常任委員)	部員 武澤信行(函館組代表)
部員 石田慶嗣(青僧協代表)	部員 藤田淳麿(宗谷組代表)
部員 山本融聡(空知北組代表)	部員 鈴木勝也(根室組代表)
部員 舛田那由他(胆振組代表代理)	部員 忍関崇教(日高組代表)
部員 (保育連盟代表代理)	部員 牧野泰乘(北見東組代表)
8名	8名

任期：2018(平成30)年度～2019(平成31)年度



重点プロジェクト実行部会(災害支援)名簿

敬称略

部会長	日笠和也	部員	殿平 真
副部会長	加藤泰和(道内活動担当)	部員	生駒晃英
副部会長	久保田真剛(保養担当)	部員	山陰龍正
副部会長	藤田真司(道外活動担当)	部員	奥田正弘
部員	佐々木恵脩	部員	臼井教生
部員	金龍之哉	部員	菅原顯史

任期：2018(平成30)年度～2019(平成31)年度

12名

若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム～み教えから学ぶ～
実行部会名簿(第Ⅱ期)

敬称略

部会長	名和康成(僧侶研修部会員)
部員	迦西智憲(社会部会長・前実行部会長)
部員	天野広道(門信徒教化部会員)
部員	佐々木壘(社会部会員)
部員	荒井成道(前寺院活動支援部会員)
部員	忍関崇教(前実行部会員)

任期：2018(平成30)年度～2019(平成31)年度

6名

子ども・若者ご縁づくり 推進委員会名簿

敬称略

部会長	永江智明(マネージャー)
部員	朝倉一恵(マネージャー)
部員	豊田靖史(マネージャー)
部員	菅原顯史(マネージャー)
部員	長尾光雲(マネージャー)
部員	高塚もも子(マネージャー)
部員	杉原 真(マネージャー)
部員	亀井依子(マネージャー)
部員	吉井直道(マネージャー)
部員	佐藤明功(マネージャー)
部員	亀井義昭(教区実践委 副委員長)
部員	両川武弘(教区実践委 副委員長)
部員	加藤泰和(教区実践委 中央委員)
部員	横湯誓之(教区実践委 僧侶研修部代表)
部員	永江雅邦(教区実践委 門信徒教化部代表)
部員	迦西智憲(教区実践委 社会部代表)
部員	高倉健司(教区実践委 寺院活動支援部代表)

任期：2018(平成30)年度～2019(平成31)年度

18名

▼北海日誌

【報告】

- 4月11日 少年連盟三役会
- 13日 仏教婦人会総連盟総会(本願寺)
- 20日 真宗教団連合 理事会・評議員会
- 26日 留萌組移動教務所
- 27日 保育連盟総会
- 28日 仏教青年会連盟総会
- 5月2日 第1回若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行部会
- 10日 青年僧侶協議会総会
- 11日 少年連盟総会
- 12日 仏教婦人会常任委員会
- 14日 教区仏教壮年研修大会(～13日 紋別)
- 14日 上川北組移動教務所
- 15日 布教団役員会
- 17日 寺族婦人会連盟役員会
- 18日 少年連盟指導者研修会(滝川市)
- 19日 スカウトクラブ総会
- 21日 上川南組移動教務所
- 22日 十勝組仏教壮年会連盟創立30周年記念式典(十勝川温泉)
- 30日 勤式運営委員会
- 31日 真宗教団連合研修会
- 6月2日 第1ブロック仏青連絡協議会
- 4日 保養相談会(～3日 いわき市、二本松市)
- 4日 門徒総代会常任幹事会
- 5日 第37回政教分離を守る北海道集会(旭川市)
- 9日 ビハーク評議会
- 15日 第2回若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行部会
- 16日 得度修礼講習会(～17日)
- 18日 仏教婦人会総会・研修会
- 18日 寺族婦人会総会・研修会
- 19日 北見西組移動教務所
- 20日 重点プロジェクト実行部会
- 21日 組長会
- 賦課基準審議委員会/災害対策委員会
- 22日 実践運動全体会
- 重点プロジェクト学習会
- 25日 布教団役員会
- 第1連区布教団研修会(～26日)
- 26日 常例線協議会
- 28日 Bブロック総代研修会(旭川市)

- 7月2日 第1連区少年連盟協議会・研修会(～3日新潟担当)
- 柴水会北海道支部間法の集い
- 3日 柴水会北海道支部ゴルフコンペ
- 4日 常備会
- 5日 第1連区教区会議長・教務所長会(～6日 仙台市)
- 10日 法式研修会
- 11日 Cブロック総代研修会(～12日 釧路市)
- 17日 子ども・若者ご縁づくりマネージャー会議
- 20日 実践運動第1回社会部会
- 21日 夏季保養事業(～27日)
- 23日 Aブロック総代研修会(～24日 小樽市)
- 24日 実践運動 正副部長会議
- 26日 臨時教区会
- 29日 保育連盟大学講座(～30日 旭川市)
- 【予定】
- 8月18日 ビハーク講座・協議会
- 20日 実践運動 僧侶研修部会
- 23日 第2回若手僧侶のための“御同朋”学習プログラム実行部会
- 第1連区布教使研修会(国府～24日)
- 9月7日 公聴会
- 10日 宗派会計監査
- 11日 連区ビハーク研修会(国府～12日)
- 28日 教区布教大会(留萌組)
- 29日 第1ブロック仏教青年会研修会
- 10月20日 第1連区仏壮研修・協議会(国府～21日)
- 11月20日 Aブロック僧侶研修プログラム(胆振組～21日)
- 28日 Cブロック僧侶研修プログラム(根室組～29日)
- 12月9日 Bブロック僧侶研修プログラム(空知北～10日)

公聴会	9月7日(金)	14:00～17:00
第1ブロック仏青研修会	9月29日(土)～9月30日(日)	
得度修礼講習会	第2回	12月5日～6日(2月得度習礼以降の方)
	第3回	2月23日～24日(来年度6月得度習礼以降の方)

北海道教区常例布教日程(予定)

敬称略

札幌別院	別院	北見西	北見東	釧根	十勝II	十勝I	日高	胆振	上川北	上川南3	上川南2	上川南1	空知北	空知南	後志	函館	札幌II	札幌I
(富山教区・上新川組・妙傳寺)	四下 順文	(滋賀教区・神崎組・稲名寺)	森岡 惠隆	(安芸教区・広陵東組・西應寺)	平 慈敬	末田 正裕		(熊本教区・玉関組・正元寺)	寺添 和南				(奈良組・広瀬組・善巧寺)	澄川 緑乃	不死川 昌史	(熊本教区・託麻組・真法寺)	真壁 法城	永田 弘彰
(福岡教区・早良組・西応寺)	小林 浩城	(備後教区・沼隈西組・大東坊)	石田 智秀	(岐阜教区・飛騨組・真光寺)	森下 広大	田中 諦康		(安芸教区・安芸北組・随泉寺)	鎌田 智也				(兵庫教区・神姫組・光明寺)	長谷 郁子	安徳 剛典	(滋賀教区・長浜組・浄願寺)	夏木 一丸	吉川 昭恵
		(四州教区・飯山南組・源正寺)	吉川 恭			那須 智雄		(滋賀教区・野洲組・慶先寺)	御厨 得雄				(四州教区・徳島西組・安楽寺)	千葉 恒乗	寺垣 信晃		生土 昌行	八村代(北海道教区・釧路組・西光寺(7月16日))
(安芸教区・佐伯奥組・法性寺)	高都持 大道		小林 教善	(安芸教区・豊田東組・西念寺)	深水 謙昭	源 明龍		(京都教区・下東組・明覺寺)	柱本 惇				(四州教区・今治組・称名寺(9日・13日))	龍田 智	澄川 緑乃	(滋賀教区・野洲組・慶先寺)	御厨 得雄	青山 直樹

※変更になる場合がございますのでご了承下さいませ。